185

The 185 series
Operator(s)
JNR 1981ñ1987,
JR East 1987ñ2021

Railway Photo Exhibition

2021.05.21－5.30 at gallery fu

11railway photographers

穐田英則 浅羽直人
石澤潤一 桑原浩幸 酒井敏寛 冨田雅彦
藤井理行 増井諭 三田村裕
三橋康弘 吉村俊彦

特急「踊り子」や「湘南ライナー」などで活躍した 185 系は、

国鉄時代の1981年、アイボリーの地色に緑のストライプを斜めにあしらった

斬新なデザインで登場しました。

その後、国鉄分割民営化に伴い JR 東日本へ承継され、

定期運用が終了する 2021 年 3 月 12 日まで、

観光地へアクセスする特急列車や首都圏の通勤列車として親しまれ、

そして多くの鉄道ファンに愛されてきました。

本展覧会では、その 185 系の魅力に取りつかれた 11 名のフォトグラファーが、

それぞれの視点で写した 19 作品を展示いたします。

頼もしくもあり懐かしくもある、

詩情たっぷりの 185 系の姿をお楽しみください。

本日はご来場くださいまして誠にありがとうございます。
「鉄道写真展“185”」と聞いて、皆さんは185系に特化した写真展であることは
おわかりいただけると思います。ならば、皆さんは「185」をどう呼んでますか？
「ひゃくはちじゅうご」？「いっぱーご」？「いちはちご」？
どれが正解かを議論するのは無粋のひと言。どんな呼び方でもいいと思います。
185系の写真を見ながら、思い出話に花を咲かせるもヨシ。
家族で伊豆に行った幼少のころを思い出す方もいるでしょう。
もしかしたら当時の彼氏、彼女と……なんて方もいるかもしれません。
最後の国鉄型直流特急車両“185系”。
デビュー当時の評判は決して良いものではありませんでした。
しかし汎用性がかわれ、特急に普通列車にライナーに。
「シュプール号」や「ムーンライトながら」として夜行列車に使われたこともありました。
山へ海へ。縦横無尽に駆け抜けた185系をいつまでも忘れぬようにしたいですね。

11 railway photographers

浅羽直人 ASABAnaoto

神奈川県平塚市生まれで、在住。よく撮影する場所は地元の東海道本線をメインに新幹線や小田急線で、最近は飛行機撮影もしています。好きな言葉は、酒 POWER ！！

やはり、踊り子は伊豆。ただ、それらしいシーンを撮りたく、日中は河津、帰り際最後はこの場所と決め打ちの１枚です。波音とともにジョイント音がこだましたシーンです。

こ・だ・ま

撮影日：2021年２月
機材：α 7R4+100-400㎜
焦点距離：400mm　SS_Fno_ISO：1/2000_11_4000

facebook →「浅羽 直人」
https://www.facebook.com/people/浅場-直人/100004728524116/

穐田英則 AKIT Ahidenori

滋賀県出身、町田市在住。鉄道をメインに花や野鳥も撮ったりします。写真教室の講師経験もあり、写真文化の発展に向けた活動をしています。フォトマスター EX、日本写真協会（PSJ）会員、町田市写真協会会員。

桜を抜けて

撮影日：2021 年 2 月　機材：E-M1mk3+40-150㎜ +1.4 倍テレコン
焦点距離：420㎜相当　SS_Fno_ISO：1/1600_4_200

河津桜。今はいたるところで早咲きの桜が観られますが、本場、河津の桜は、ボリューム感があり大勢の観光客で賑わいます。逆光シーンではありますが、菜の花とのコラボで撮影することができました。

アウェーからの 185

撮影日：2021 年 3 月
機材：E-M1mk3+7-14㎜
焦点距離：20㎜相当
SS_Fno_ISO：1/640_4_200

小田急小田原駅から踊り子号を撮影したらどんな感じなんだろう！？　ひょっとしてロマンスカーと共演できるのではないかと調べてみたところ、発車時間の差はわずか 1 分！　ロマンスカーが発車する直前に踊り子号が到着すればと共演を期待しましたが、残念でした。でも、誰も撮りそうもないカットが撮れて嬉しいです。

Instagram →「bay_hide_aki」
https://www.instagram.com/bay_hide_aki/

石澤潤一
ISHIZAWA junichi

東京都八王子市在住。幼少期は近所の玉電（旧東急玉川線）デハ 200 や小田急電鉄SE車、キハ 5000 を見て育ちました。当時の印象が強烈すぎ、約 60 年経つ今も路面電車やロマンスカーを追いかける日々が続いています。

ハマからヤマへ

撮影日：2016 年 11 月　機材：EOS 7D mk2+70-200㎜
焦点距離：152mm 相当　SS_Fno_ISO：1/1000_8_640

海沿いの区間を行くイメージが強い 185 系。そのなかで、港街からアルプスの麓の街へ向かう「はまかいじ」という列車がありました。季節感の乏しい湘南地方と違い、11 月初旬ともなればカラマツの黄葉に始まり、急ぎ足で冬支度に向かうなか、緑のストライプが流れていきました。

ヤマを従え

撮影日：2021 年 2 月
機材：EOS 7D mk2+24-105㎜
焦点距離：107mm 相当
SS_Fno_ISO：1/1250_14_400

185 系と富士山を絡めるのに人気の撮影地、伊豆箱根鉄道線。富士が冠雪する季節ともなると、多くのファンが撮影に訪れてきます。横並びで撮影する踏切道は撮影するには容易ですが、雑多なものも入りいまひとつスッキリしません。そこで自ら低い位置取りで富士と 185 系のみの絵を創ってみました。

facebooke →「石澤潤一」
https://www.facebook.com/people/ 石澤潤一 /100012191492706/

桑原浩幸
KUWAHARAhiroyuki

相鉄いずみ野線沿線在住。写真歴 30 年、鉄道信号メーカに勤める傍ら四季のなかを走る鉄道をテーマに撮り続けています。作品は、鉄道会社や自治体のカレンダー、鉄道ホビダス「今日の一枚」などに掲載いただいております。

疾走駿豆線

撮影日：2021 年 3 月　機材：D7500
焦点距離：210mm 相当　SS_Fno_ISO：1/ 8_20_100

静岡県伊豆の国市の守山山頂展望台からの撮影。ND フィルターを装着して 1/8 秒での流し撮りをしました。「踊り子号」からの引退が迫った 185 系 C 編成 5 両が、駿豆線沿線の特徴でもあるイチゴのビニールハウスをバックに綺麗に流れてくれました。

冬の使者

撮影日：2001 年 1 月
F100
（フィルムからスキャン）

1980 年代～ 90 年代のスキーブームに運転されたスキー列車「シュプール号」。185 系は「シュプール上越号」などで活躍しました。最後の運転となった 2001 年は「アルペン上越号」と名称変更され下り列車のみの運転となったため、明るい時間帯に所属区への回送があり谷川連峰をバックに走る「アルペン号」（回送）を撮ることができました。「アルペン」幕は 2001 年の 1 月～ 3 月にしか見られませんでした。

facebook →「桑原浩幸」
https://www.facebook.com/hiroyuki.kuwahara.752

酒井敏寛
SAKAItoshinori

鉄の塊を追いかけてまもなく半世紀。そのときの気分で撮りたいものを追いかけ続けていますが世代もあって子どものころから見ていた昭和の車両が大好物です。海外鉄も大好きで虎視淡々とコロナ明けのチャンスを狙っています。

思い出の彼方へ

撮影日：2021 年 3 月　機材：EOS 7D mk2+100-400㎜
焦点距離：640mm 相当　SS_Fno_ISO：1/640_5.6_1600

最終運行迫るなか、涙雨が 185 を濡らしていた。
雨粒の向こうで踊り子が暗闇に吸い込まれていった。

思い出をのせて

撮影日：2020 年 2 月
機材：EOS 5D mk4+100-400㎜
焦点距離：349mm
SS_Fno_ISO：1/250_5.6_640

冬の陽が傾くころ、山影に踊り子のマークが浮かび上がる。
暖房がきいた車内には都会へ戻る人たち。
お土産にどんな思い出を語るのだろうか。

facebook →「酒井敏寛」
https://www.facebook.com/toshinori.sakai.3

冨田雅彦 TOMITAmasahiko

東京都江戸川区出身、八王子在住。大学サークルで、先輩や同期の影響を受けて、風景を絡めた鉄道写真の魅力にはまって約 20 年、休日中心に主に関東近郊から東北、北海道に赴いて撮影しています。

ちょっと前まで普通に走っていた踊り子の車両がガラッと変わるというので、有名な撮影地で何カ所か撮影しながら、撮影場所を探索していました。そして河津の先、山に入る道を進むと、わずかながらコスモスが咲いている場所を見つけました。実は、望遠レンズで見たこの写真の少し外側にはもうコスモスはなかったのですが、画面下半分に秋を詰め込むことができました。

コスモス咲く伊豆路

撮影日：2019 年 10 月
機材：PENTAX Z-1p+70-200mmx1.4 テレコン
ベルビア 100 からスキャン
SS_Fno_ISO：1/500_4_100

facebook →「冨田雅彦（Masahiko Tomita）」
https://www.facebook.com/masahiko.tomita.127

藤井理行 FUJIIyoshiyuki

東京都出身、神奈川県川崎市在住。風景の中でありつつ列車の存在感も大きい写真を目指してます。 2015 年「鉄道のある風景写真コンテスト」入賞、「レイルマガジン」2019 年 4 月号に「武田菱 甲斐路を駆け抜けて」掲載など。

185 系は使い勝手がよかったのか、関東中心にいろいろな線区に乗り入れていました。そのひとつが横浜から中央本線で松本まで乗り入れていた「はまかいじ号」でした。いつもは海沿いを走る 185 系が山の中を走るシーンをよく撮影していました。このカットは中央本線鳥沢の新桂川橋梁にて、青空と高い雲を大きく入れて撮影してみました。

龍の如く

撮影日：2018 年 10 月
機材：EOS-1DX+EF16-35㎜
焦点距離：21mm
SS_Fno_ISO：1/1250_5.6_200

facebook →「藤井理行」
https://www.facebook.com/people/ 藤井理行 /100005861133698/

増井諭
MASUIsatoshi

横浜生まれの横浜育ち。旅と鉄道、模型、カニ好き。天気が良いと鉄撮りや日帰り登山など何処か出掛けたくなる性分である一方、鉄道模型と同居中のアカテガニに夢中になり、完全巣ごもり状態になる日もあります（笑）

Snow Moon（雪月）

撮影日：2021 年 2 月　機材：E-M1mk2+40-150㎜
焦点距離：128mm 相当　SS_Fno_ISO：1/500_2.8_2000

185 系の斜めストライプの角度は 60 度。その延長上に輝く 2 月の満月（Snow Moon）。上り最終の踊り子号が赤入洞橋梁を渡り終えるとみかん園の谷は再び漆黒の闇に包まれました。足掛け 4 年、引退直前に見られた奇跡のコラボです。

素盞鳴（スサノオ）神社

撮影日：2020 年 2 月
機材：E-M1mk2+12-100㎜
焦点距離：56mm 相当
SS_Fno_ISO：1/1000_5.6_800

伊豆半島に春を呼ぶ河津桜が咲き誇る頃、伊豆稲取では『雛のつるし飾りまつり』が毎年開催されています。素盞鳴 (スサノオ) 神社では参道の階段に 118 段の雛人形が飾られ、オールキャストでお出迎え。列車も乗客が見られるように時には減速運転。されどチャンスはほんの一瞬。同機のプロキャプチャーモードにて撮影しました。

Instagram →「rugh.s.masui」
https://www.instagram.com/rugh.s.masui/

三田村裕
MITAMURAhiroshi

神奈川県厚木市在住。平日は公立学校の教員、土日祝日は鉄ちゃん。50歳半ばに差しかかってからの遅いデビューでしたが、美しくドラマチックな鉄道情景を追い求めて、日々撮影をしています。

黎明の時

撮影日：2017年10月　機材：D500+70-200㎜
焦点距離：300mm 相当　SS_Fno_ISO：1/800_3.5_640

水平線上に太陽がその一端を見せるまでの十数分間は、1日のうちで万物の色彩が最も変化を見せ、そのなかに何度身を置いても、決して飽きることはありません。静寂かつ厳かでありながら、夜の間に蓄えられたエネルギーがみなぎる空間。そんな黎明の飽和状態を独特のモーター音が一気に打ち破り、185系とともにまた新たな1日が始まるのです。

我が路

撮影日：2019年11月
機材：D500+200-500㎜
焦点距離：690mm 相当
SS_Fno_ISO：1/640_5.6_6400

朝、まだ眠りから十分に覚めない通勤客をライナーとしてそれぞれの職場に送り届け、昼には、西湘や東伊豆の真っ青な海を観光客に楽しませながら走る。そして夜、仕事を終えそれぞれの家へと急ぐ通勤客にしばしのくつろぎを提供する。雨の日も、風の日も……。「回送」の幕を掲げて始まった今日を「回送」の幕で終える。これが185系の路。

facebook →「三田村裕」
https://www.facebook.com/hiroshi.mitamura1

三橋康弘
MITSUHASHIyasuhiro

横浜市出身、現在も横浜市内に在住。現在はITコンサルタントとして働きながら、休日を中心に写真作品を撮影しています。被写体は鉄道、人物、風景など多岐に渡ります。日本写真協会（PSJ）会員。オリンパスアンバサダー。

踊り子の旅～さあ行こう～

撮影日：2021年3月　機材：E-M1mk3+12-40㎜
焦点距離：44mm相当　SS_Fno_ISO：1/125_2.8_400

踊り子号の始発駅である東京駅での写真です。モデルのArlyさんに撮影の協力をお願い、185系の定期運行終了間際の2021年3月7日に東京駅へ向かいました。ホームでは多くの鉄道ファンが撮影していましたが、人がいない隙に何とか緑のストライプを背景に写真を撮れました。

踊り子の旅～もうすぐ終着駅～

撮影日：2021年2月
機材：E-M1mk3+12-100㎜
焦点距離：160mm相当
SS_Fno_ISO：1/800_4_400

伊豆急行線の伊豆稲取駅と今井浜海岸駅の間にある、電車と海と河津桜を写せるポイントで撮影した写真です。写真の奥側が終点の伊豆急下田駅方面なので、終着駅へ向かうイメージにするため、踊り子号伊豆急下田行のテールライトが写るように撮影しました。令和の時代に185系と河津桜を撮影できたことは、私にとって良い思い出になりました。

Instagram→「yasuhiro_3284」
https://www.instagram.com/yasuhiro_3284/

吉村俊彦
YOSHIMURAtoshihiko

岐阜県出身、神奈川県二宮町在住。某鉄道会社に勤務しながら、近場を中心に愛機を抱えてふらふらするのが好きな本職鉄。季節や天気、時間が見た瞬間にわかる写真を目指して今日も絶賛悶絶中。

オレンジの河

撮影日：2021 年 1 月　機材：D500+TM 製 70-300㎜
焦点距離：450mm 相当　SS_Fno_ISO：1/2000_5.6_500

冬の夕暮れは早い。太陽が加速をつけて箱根の山に落ちていく。その短い時間に、ショーがはじまる。辺り一面がオレンジに輝くショーだ。列車、架線、線路際のススキ、そしてレールもオレンジに輝く。ショーの主役は 185 系「踊り子」号。重いモーター音を BGM にしてゆっくり通過する。我が家ナナメ前の日常。

子ども達に未来を

撮影日：2020 年 4 月
機材：D500+TM 製 70-300㎜
焦点距離：127mm 相当
SS_Fno_ISO：1/1250_7.1_800

コロナ禍でどこも行けなくて……。我が家ナナメ前に近所のママさんと 3 人の子どもたちがやってきた。子どもたちは元気だ。行き交う列車に大きく手を振る。「次は特急だよ」と私が言えばテンションは最高潮に。子どもたちの元気な手振りの挨拶に運転士も手を振りタイフォンを軽くいっぱあつ。あれ？ 末っ子はちょっと出遅れた（笑）

facebook →「吉村俊彦」
https://www.facebook.com/toshihiko.yoshimura.7

gallery fu

Exhibition information

7 月中旬までの展覧会の予定情報です。詳しくはホームページ等でご確認のうえ、ぜひご来場ください。下記 QR コードから各 SNS へアクセスすると、最新情報をお受け取りいただけます。あわせて、フォローやご登録をお願いいたします。

北本晶子個展｜delirium（デリリウム）

個展｜2021年６月２日（水）～６月 13 日（日）

「時間も、空間も、記憶も、自分そのものさえも、不確かになる。」
delirium（デリリウム）とは、ある人が錯乱し、見当識障害をきたし、はっきりと考える、または記憶することができない精神状態をさします。
日常のなかで当たり前に持っていたはずの正気が、いかに脆弱なものに依拠しているのか、Digital painting、ドローイングを用いて表現します。

構想計画所｜別名保存

彫刻・立体造形｜2021年６月 22 日（火）～７月４日（日）

ある物体において、それを構成するパーツが全て置き換えられたとき、過去のそれと現在のそれは「同じそれ」だと言えるのか否か？　花崗岩とその風化物であるマサや真砂土からなる構造物を用い、気候変動をはじめとする他のものたちと複合的に関係することで纏う個体の変容（風化）と、それに過剰に抗うかのような人為的な介入を実践する。

海老塚耕一｜水のポリフォニー

彫刻・立体造形｜2021年７月６日（火）～７月 18 日（日）

海老塚耕一は、作品を「風景」と考え制作に向かっている。その「風景」は形式や様式で捉え生じるような一定の方向を示すことはない「空白の場所」であり、見るものの幾つもの考察とともに存在していく。

HP　twitter　instagram　facebook

gallery fu｜1-31-9 Ishikawatho Naka-Ku Yokohama Kanagawa, Japan｜zip code 〒：231-0868
phone：070-6429-8597